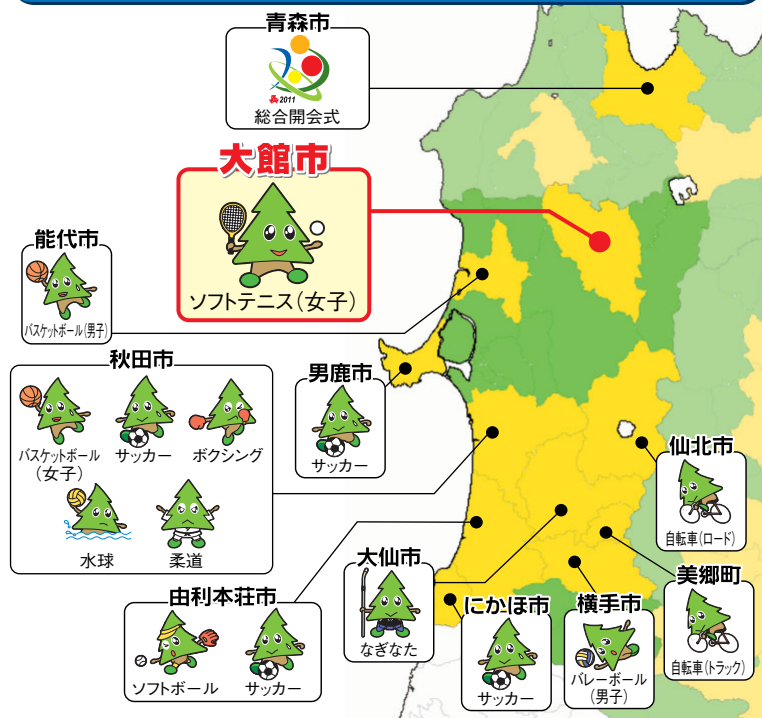


北の空 君は無限の 可能性

『2011北東北総体』大会スローガン

平成23年度
北東北総体(インターハイ) 開会式・県内の種目別 開催地



北東北3県で開催

インターハイは、高校生にスポーツ実践の機会を与えて、技能の向上とスポーツ精神の高揚を図ろうと、昭和23年から全国各地で開催されています。

これまで1県を主会場に行われてきましたが、今年の沖縄県を最後に、来年からは複数の県で合同開催することになります(ブロック開催)。その最初の大会が、青森・岩手・秋田の3県で開催する北東北総体です。

大会期間は24日間。総合開会式は青森県青森市の「青い森アリーナ」で開かれ、各競技は3県に分かれて熱戦が繰り広げられます(カヌー競技は宮城県)。

ソフトテニス(女子)競技会場となる本市には、選手や役員、観客など約2万人が訪れると予想されています(わか杉国体では1万3787人)。また、高校生が「一人一役活動」を掲げて広報や歓迎活動、運営補助などに携わり、大会を盛り上げます。

今後は、市ホームページなどで大会情報を発信していきます。

インターハイの雰囲気と緊張感を体験して欲しい

— 当時を振り返って見ると?

部員が80人近くいたので、選手を目指してみんな一生懸命でした。それ以上に、当時の黒谷監督と長崎コーチの指導が厳しくて、暗くてボールが見えなくなるまで練習しました。

市内では鳳鳴高校が強くて『打倒鳳鳴』が合言葉だったんです。地区大会で勝ったときは本当にうれしかったですね。後は決勝戦まで一戦一戦必死でした。インターハイが地元開催のため準優勝でも出場出来ました。が、目標はあくまで『全県優勝してインターハイ出場』だったんです。でも、決勝で秋田北高校に敗れて準優勝でした。

— インターハイの結果は? また思い出せますか?

秋田北高より下の成績は残せないという気持ちで頑張り、ベスト16に入ることが出来ました。また、当時は民泊だったので、地元の家庭の料理をこちそうに食べたのが思い出深いですね。

— 出場を目指す選手に激励を

北東北総体までの1年7カ月はあつという間です。県内で勝つことに満足するのではなく、上位の大会を勝ち抜くための練習を積み重ねることが大事です。インターハイには全国から強豪選手が集まり、独特の雰囲気と緊張感があるので、ぜひ経験して欲しいですね。



大館桂高校3年時の昭和59年、地元秋田で開催したインターハイソフトテニス競技に出場し、団体戦ベスト16。当時は主将。

みすず
松岡(旧姓佐々木) 美鈴さん
(下代野1区)